

政府・東京電力中長期対策会議 運営会議 第3回会合 議事概要

日 時： 平成24年2月27日(月)10:00～11:40

場 所： 東京電力 本店 本館1201会議室

出席者：【共同議長】

園田大臣政務官(内閣府)，北神大臣政務官(経産省)，相澤副社長(東電)

【顧問】神本大臣政務官(文科省)

【委員】朝日委員(経産省)，山下委員(東電)，山本委員(保安院)，

横溝委員(JAEA)，岡村委員(東芝)，丸委員(日立)

【アドバイザー】尾本委員(原子力委員会)，横山理事(電中研)，浅間教授(東大)，

井上顧問(電中研)

議 事：

1. 共同議長より，冒頭挨拶

- ・ これまで，政府，東電，関係機関がチームワークよく，順調に中長期ロードマップの取り組みが進捗していることに感謝。地元をはじめ国内外の皆さまに対し，トラブル等の情報はもちろんのこと，着実に進捗している取り組みについても積極的に情報発信していくことが必要。来月は発災から1年が経過するが，心配されている地元の方もいる。廃止措置に向けて，海底土被覆や3号機格納容器ガス管理システムの調整運転開始等の多角的な取り組みを更に加速して進めていきたい。また，凍結による漏えいや，2号機での温度計故障等のトラブルもあったが，これらについては，対策をしっかりと行い冷温停止状態を維持しながら中長期対策を進めていく。(園田大臣政務官)

2. 第2回会合議事概要について

- ・ 事務局より，議事概要(案)について提示があり，コメントがあれば本日AM中に事務局まで伝えることとした。

3. プラントの状況について

- ・ 東京電力より，原子炉压力容器温度，格納容器気相部温度は，ともに安定しており，格納容器内圧力や格納容器からの放射性物質の放出量等のパラメータについても有意な変動はなく，総合的に冷温停止状態を維持と判断している旨説明があり，原子炉の状態が安定していることを確認した。
- ・ 東京電力より，現状に加えて以下の計器故障の件について報告があった。
 - ①2号機原子炉压力容器底部温度に関し，一時期運転上の制限を逸脱したと宣言したが，温度計の状態を評価した結果，当該計器は故障していたものと判断し，運転上の制限の逸脱を2月12日にさかのぼって訂正するとともに，他の温度計により引き続き温度を監視することとした。
 - ②2号機RPVベローシール温度(保安規定上の監視対象外)が一時期100℃を超えていたが，その後の調査の結果，2月23日故障と判断した。

- ・ 以下の内容を確認した。
 - ①冷温停止状態の評価にあたっては、原子炉圧力容器底部温度、格納容器気相部温度、格納容器ガス管理システムを用いたサンプリングデータ等を総合的に判断すること。(保安院)
 - ②温度計の劣化対策、並びに代替措置の検討をしっかりと行うこと。(保安院)

4. 個別の計画毎の検討・実施状況

- ・ 東京電力より、これまでの一ヶ月間の動きと今後一ヶ月間の予定について、資料に基づき説明があり、至近の主要な課題への取り組みとして以下の内容を確認した。

<循環注水冷却>

- ・ 格納容器から漏洩する放射性物質の放出量を低減し、プラント状況をより詳細に把握するため、3号機格納容器ガス管理システムの調整運転を開始(2/23~)。(東電)
- ・ 滞留水の水位・水温を確認し、原子炉設備の安定冷却が維持されていることを再確認すること、新たに格納容器雰囲気線量を測定し、今後の取り組みに資する基礎データを取得することを目的とし、2号機原子炉格納容器内部調査を計画。(東電)

<滞留水処理>

- ・ 現行の水処理施設の処理水に含まれる放射性物質濃度をより一層低く管理するため、多核種除去設備を導入予定。基礎試験により、除去対象として着目した核種の内、各々の γ 核種及び全 α 放射能測定に基づく測定結果より、検出限界値未満まで除去できることを確認済み。なお、 β 核種については、更なる浄化のため有意な濃度で残存する核種の特定を実施中(3月上旬に測定完了予定)。(東電)
- ・ 建屋内滞留水の増加の原因となる建屋内への地下水流入を抑制する目的で、サブドレンピットの水位を低下させるべく、2, 4号機タービン建屋側サブドレンピットの浄化試験を実施中(1/10~)。(東電)
- ・ 処理水受けタンクについて、現在設置済み(約16.5万トン)に加え、約4万トンを増設工事中(~4月予定)。更なる対策として、既設タンク(小容量)のリプレイス(大容量)による信頼性向上や、大型鋼製タンクが設置できないスペースへの地下水貯層の設置等について検討中。(東電)

<環境線量低減対策>

- ・ 取水路前面エリアの海底土を固化土により被覆予定(3月初旬~6月)。現在、現地試験施工の準備中。5, 6号機側にもシルトフェンスを追加設置予定。(東電)
- ・ 敷地境界線量の低減のため、土や土嚢等による遮へい対策を施した一時保管施設によるガレキ等の保管を計画(4月中旬~)。準備工事を実施中(2/13~4月中旬)。(東電)
- ・ 放射性物質の放出の監視強化のため、モニタリングポスト周辺環境改善対策を開始(2/10~)。(東電)

<労働環境改善>

- ・ 1F 構外から免震重要棟及び5,6号サービス建屋への移動時における保護衣をタイベックから一般作業服に変更すること、及び建屋外作業時における全面マスクのフィルタ変更

(チャコールフィルタ→ダストフィルタ)することの周知(2/23:安全推進連絡会), 3/1
運用開始予定。(東電)

<使用済燃料プール対策>

- ・ 4号機使用済燃料プール内のガレキ分布状況調査(3月中旬～下旬開始予定(調整中))
に先立ち、プール内に水中カメラを吊り降ろし撮影を実施。5m程度の視認距離があるこ
とを確認(2/9)。(東電)
- ・ 今後の燃料取り出し等への検討を行うため、2号機原子炉建屋オペレーティングフロアで
の作業を見据え、遠隔操作ロボット Quince を使用し、現時点で対応可能な調査を実施(2
/27予定)。(東電)

5. 中長期ロードマップの進捗状況

- ・ 東京電力より、中長期ロードマップ進捗状況(概要版)についてとりまとめた旨説明があり、
内容を確認した。

6. 共同議長より、終了ご挨拶

- ・ 今後、中長期対策を進めるにあたり、以下の3点に留意して取り組んでいきたい。(相澤
副社長(東電))
 - ① 計画と成果のみの報告になっているので、その間にあるプロセスを報告することで現
場、現物、現実を理解して頂く。
 - ② 過去に指摘を頂いた課題について、担当者間では情報共有されていても運営会議に
報告されないため、再度同じ指摘を頂くことになる。明確な答えがでていない段階で
も、しっかり状況報告する。小さなトラブル、ちょっとしたアクションについても同様に
早めの報告を行う。
 - ③ 社外への情報発信にあたり、念のためにやっていることと、必要なのでやっているこ
とを仕分けした上で、タイムリーにかつ繰り返し丁寧に説明することを心がける。引き
続き改善を図っていく。
- ・ 今後、中長期対策を進めるにあたり、以下の2点に留意して取り組んで頂きたい。(北神
政務官)
 - ① 運営会議で課題を吸い上げ、関係機関の連絡を密にし、多面的な方策で対応する。
 - ② 多くの作業を平行してやっているのでメリハリがなく全体像が見え難い。重点課題を
明示して、短期間の目標を設定することでメリハリがでてくる。中長期に亘る組み
みなので集中力が大切。

7. その他

- ・ 第4回会合は、以下の日程で開催する。
平成24年3月26日(月)10時～

以上